

(1) オラクルが Human Workflow と呼ぶ技術がある。グループウェアを使わなくてもリレーショナルデータベースだけを使ってワークフローを実現できる技術である。

私は、住友金属の子会社の住金制御エンジニアリングで、この技術を発明した。上司の中村敏夫は、この成果を妬み、執拗なパワハラを繰り返した。そのため、私は体調を崩し退職を余儀なくされた。そして、民事裁判を起こし和解した（和解に至るまでの間に2度、住友金属の社員に待ち伏せされ暴行を受けた）。この間に、住友グループの NEC は、私の発明を特許出願し、オラクルに技術を売り利益を得た。

(2) この事実気づいた私は、様々な場でこの事実を公表した。すると、住友は暴力団等と使い、繰り返し私を脅迫・暴行した。

(3) 私は、大阪工業大学の知財部教授（元東芝の知財部長）の則近さんに相談した。そして、私を共同発明者にして、発明の対価を支払うという案をまとめてくださった。しかし、脅迫・暴行を行った住友グループ（NEC）の社員を発明者として名を残せという要求はあまりにも傲慢な要求であったので、受け入れることはできなかった。

(4) 住友は、脅迫・暴行だけでなく、何度も事故を装って私を殺そうとした。一度目は、夜、水銀灯で明るく照らされた横断歩道を歩いて渡っていたときに、すべてのライトを消した自動車が私をめがけて突っ込んできた。おじけづいた実行犯が直前でブレーキをかけたので、自動車は私の直前で止まり、殺されずに済んだ。

私は、警察に被害届を出し受理された。その後、住友金属という会社はなくなった。

住友金属という会社がなくなった後も、何度か自動車にひき殺されそうになった。たとえば、仕事帰りの夜道、小さな自動車が、私の後をのろのろと付いてきた。街灯がなく暗いところで、大型バイクがエンジン音を響かせて待ち構えていた。前後から挟み撃ちにしてひき殺すつもりであった。私は、とっさに携帯のカメラで撮影を始めた。そのため、ひき殺されずに済んだ。

この例は、単にパワハラで発明が盗まれたという次元の出来事ではない。住友は、繰り返し、殺人をしようとしているのである。特許制度の前提を大きく超える事件である。したがって、特許制度の枠組みを超えて、発明者の権利を回復していただきたい。また、この犯罪によって奪われた発明者の権利の回復を、海外の特許庁にも要請していただきたい。それによって、日本国の失われた富が回復できる。

ちなみに、NECに問い合わせたところ、NECは、文書で、特許を取得できなかったと回答した。発明の意味が分かっていながらである。

以上